

ふい・ふい・布野 物語

〜^{みっい}三井 と ^{いのう}稲生の ^{むらびと}村人 ^{すく}救います〜



はじめに

平成三十年度三次市立布野中学校一学年五人は、布野町の魅力を多く方々に知ってもらうために、三次市三次町に残る妖怪伝説「稲生物怪録」に登場する、布野町出身の相撲取り三井権八を主人公とした絵本を作成しました。

『ふ・ふ・布野物語く三井と稲生の村人救いますく』と題したこの絵本は、権八と、同伝説の主人公稲生平太郎が、旅の途中に通り掛かった布野で人々を襲う化け猫の存在を知り、キツネの力を借りて退治するオリジナルストーリーです。五人で粗筋を考え、分担して九場面の絵を色鉛筆などで描きました。

生徒は五月から、総合的な学習の時間に地元伝わる昔話や妖怪について、聞き取りと現地調査を重ねてきました。民話などをまとめた郷土史本『布野村伝説』からヒントを得て、化け猫やキツネが登場させたストーリーを創作しました。特に、フィールドワークの中でわかったこととして、平太郎の生い立ちやその活躍が記されている「稲生武太夫碑」の裏側には、平太郎は「布野郷農武右衛門長子」と刻まれており、真偽は別としても少なからず布野との縁を感じました。その他にも「化け猫の墓」など現在も跡が残っている場所もあり、布野町の歴史的な魅力に気づくことができました。

十月末の布野中学校文化祭では、これを劇化して披露し、地域・保護者の皆様からご好評をいただきました。また、平成三十一年一月二十七日には、「第五回みよし教育フェスタ」でこの取組を発表するとともに、令和元年十一月二日には、「青少年育成県民運動推進大会」でも発表する機会を得ました。

一人でも多くの人たちに、生徒たちが創った絵本を読んでもらえたらうれしい限りです。

令和元年七月

三次市立布野中学校

校長 池田 誠

～登場人物紹介～



みついごんぱち
三井権八

現在の布野町で生まれた相撲取り。稲生平太郎とともに、三次町でもののけを退治した。その後、旅の途中で故郷の布野を訪れる。



いのうへいたろう
稲生平太郎

現在の三次町に伝わる昔話「稲生物怪録」では、三次町の自宅に現れたもののけを三井権八とともに退治した。その後、三井権八とともに旅に出る。

ふのぼきつね
布野の化け狐

現在の布野町戸河内近辺にある稲荷神社に住んでいる狐のもののけ。いろいろな姿に化けることができる。たまに人間の姿に化けて村に現れるらしい。布野の民話では、人間を助けた伝説がいくつも残されている。



ひらばやしやしきぼねこ
平林屋敷の化け猫

現在の布野町上布野にある平林屋敷に住んでいる猫のもののけ。昔は大金持ちの飼い主に可愛がられていたが、飼い主がいなくなってから食べる物がなくなり、人間を食べるようになる。



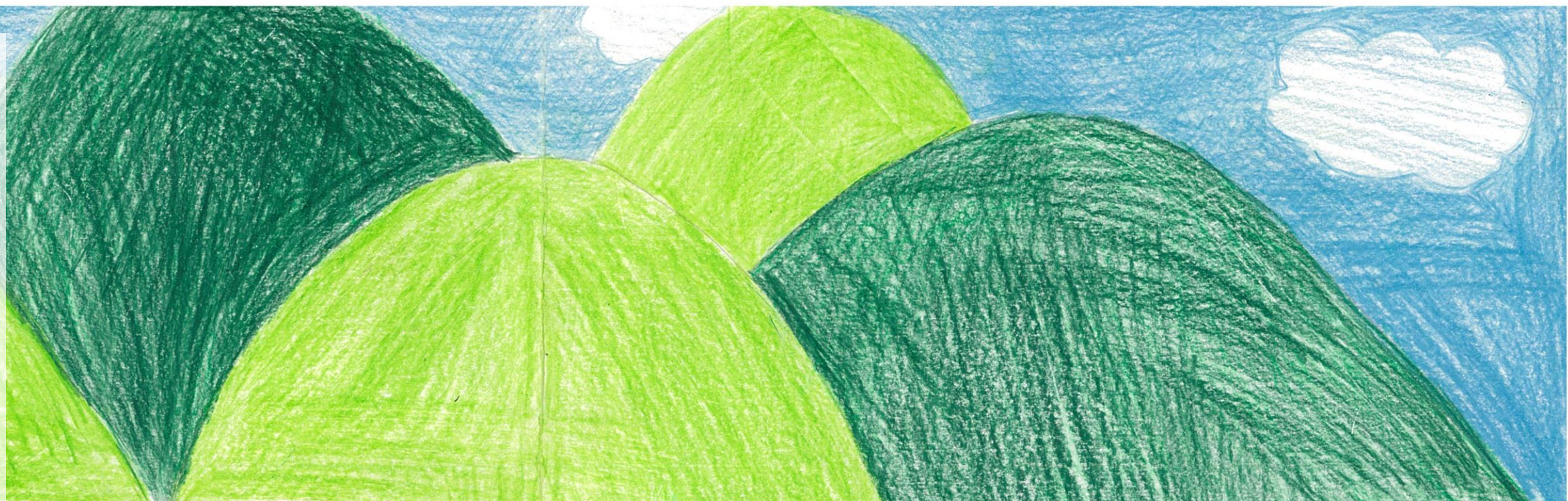
ふのむらびと
布野の村人

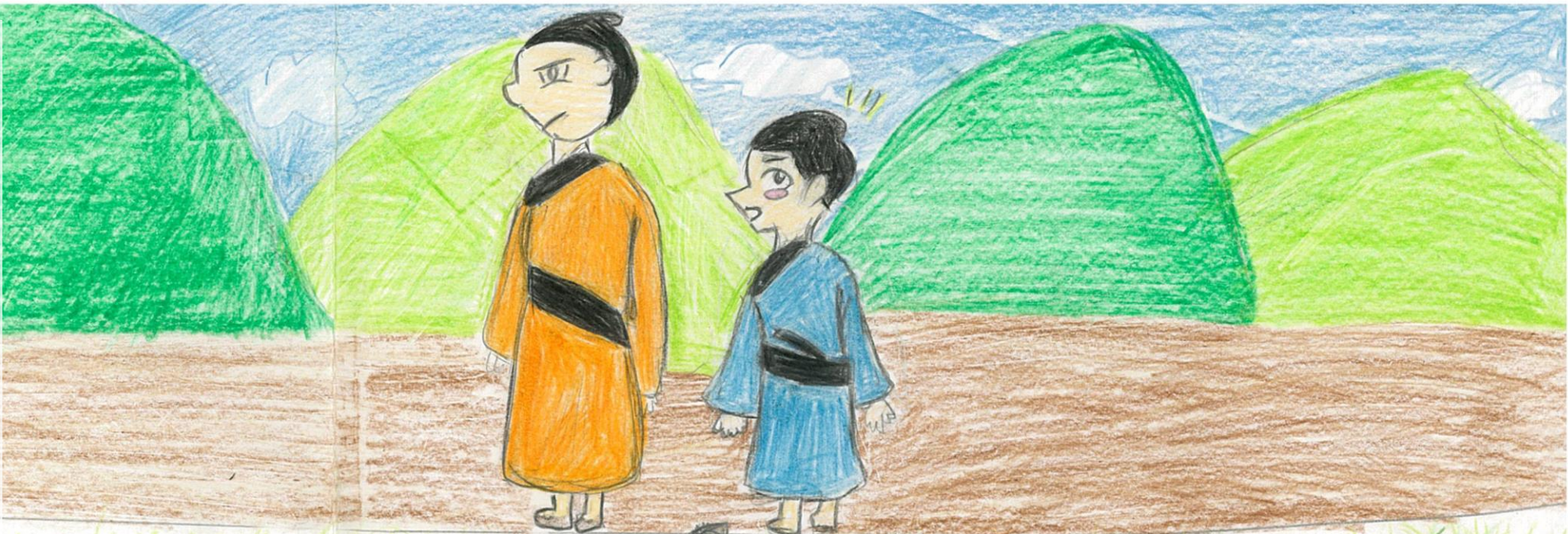
現在の三次市北部に位置する布野町に住む村人。平林屋敷にいる化け物の噂に怯えている。



かみふのそん まちなか ひらばやしやしき
上布野村の町中に平林屋敷というお屋敷がやしき
ありました。このお屋敷は大金持ちのおじいさんのお屋敷でした。お屋敷には、おばあさんとたくさんのお手伝いさんが住んでいて、とてもにぎやかだったそうです。しかし、おじいさんが亡くなつてからは、どうしたことも悪いことばかり続きました。たくさんあったお金もなくなつてしまひ、とうとうおばあさん一人がお屋敷に残ることになりました。その後、おばあさんの姿を見ることはありませんでした。今では、庭の草はぼうぼうに伸び、立派だったお屋敷もボロボロになつていきました。村人はそんなお屋敷のことをき味悪がるようになりました。

やしき こわ うわさ
さらに、このお屋敷には怖い噂がありました。それは、お屋敷に近づいた人間はばけもの おそ
化物に襲われるというものでした。まいばんまいばん
毎晩毎晩「ギャオー！」という鳴き声がき
聞こえてくるそうです。その噂は瞬く
間に村中へと広がり、村人たちは皆ひどく恐れていました。





「このお屋敷には人を襲う化物がいます。昨夜
も村人が襲われているのを見た者がいるのです。」
そう話す村人は、恐怖のあまり顔がこわばっていま
す。村人の1人が「お主ら、村では見かけない顔だ
な。」と言いました。「せっしやたちは三井権八と
稲生平太郎と申す。」権八は名乗りました。「聞い
たことのある名前でございます。もしかして、三次
町で妖怪を退治したと聞くお方では。」「それは
いいことを聞いた。どうか今回の化物も退治しては
くれないか。」村人たちは2人にすがる思いで必死
に助けを求めました。



ある日、三井権八と稲生平太郎という
2人の旅人が上布野を歩いておりました。
そこには大きなお屋敷があり、その近くに
は村人が集まっています。
「近くに行ってみよう。」権八が言うと、
2人は村人の集まる方へと近づきました。
「どうしたのですか。」平太郎は村人に尋ね
ました。村人は答えました。



むらびと ばけものたいじ たの ごんばち へいたろう ふたり ばけもの たお やまおく とつくん
村人たちから化物退治を頼まれた権八と平太郎。2人は化物を倒すために山奥で特訓をすることに
しました。山奥へと向かう途中、2人の目の前に1匹のキツネが現れました。「こんな山奥に何しに来た
のですか。ここは私たちキツネの縄張り。人間が来るようなところではありません。」権八らはどうして
山奥へ来たのか、そのいきさつをキツネに話しました。



わけを知ったキツネは2人にこう言
いました。「では、ここは1つ私がか
を貸しましょう。村の危機と聞けば
黙っていられます。」
それを聞いた権八と平太郎はとて
も心強く思い、キツネに化物退治の
手伝いをしてもらうことにしました。

ある日の夜。権八と平太郎はキツ
ネを連れて平林屋敷へと向かいまし
た。キツネはどんなものにも化けるこ
とができると聞いて、きれいな女の
姿に化けるようにしました。

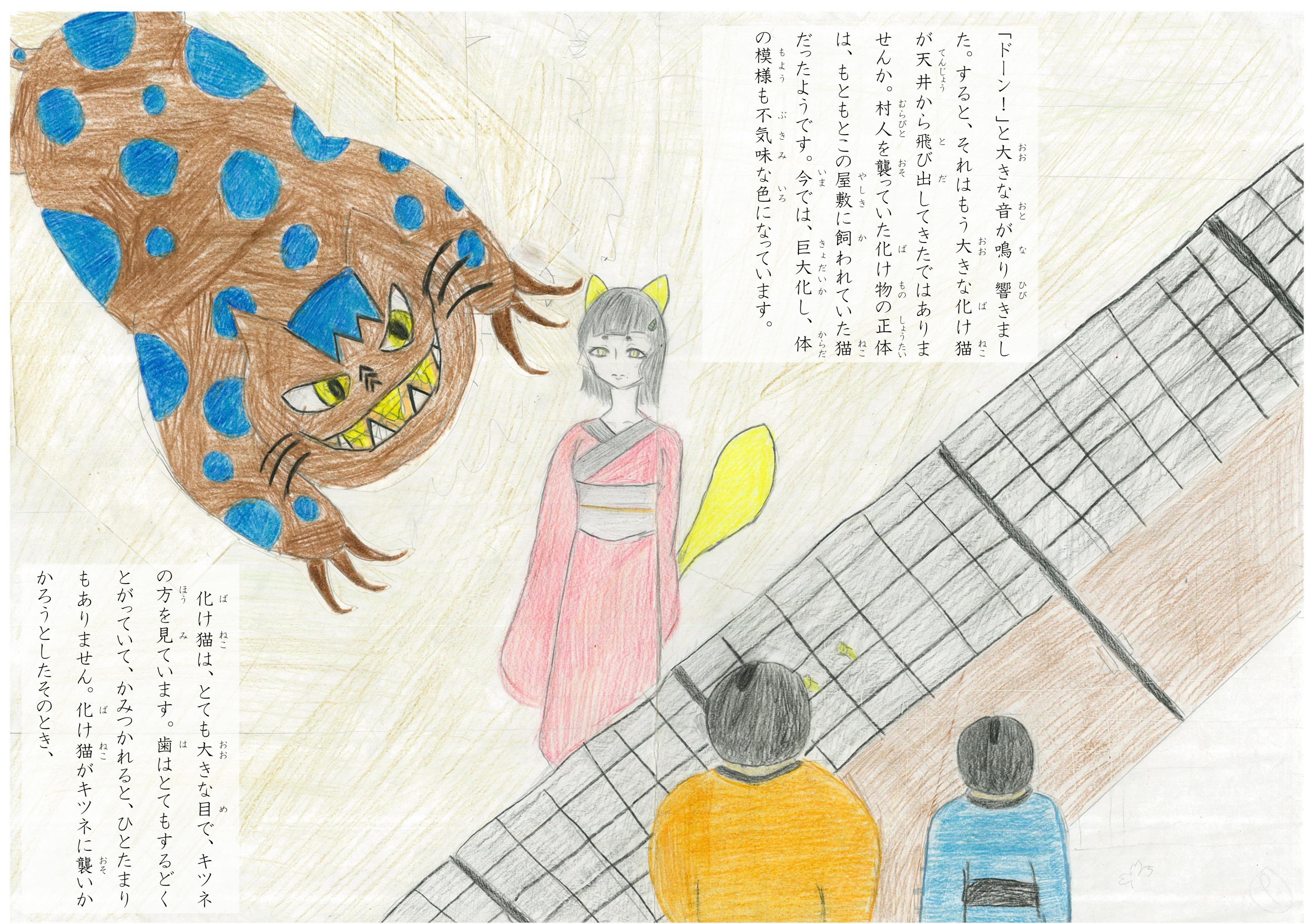
屋敷に近づくと、ボーボーに伸びた草が
邪魔をしてきます。また、屋敷の屋根には、
カラスがとまっていて、こっちをじっとにらんで
きます。「何やら不気味な屋敷ですね…。」
平太郎はすっかり怯えている様子です。「早く
参りましょう。」キツネが言いました。

やしき なか へや ぐんばち へいたろう へや そと ばけもの で ま ぶ
キツネは屋敷の中の部屋でおとりとなり、権八と平太郎は部屋の外で化物が出てくるのを待ち伏せする
さくせん た へや ま てんじょう あや おと き
作戦を立てました。キツネが部屋で待つてしばらくすると、天井から「ミシイ…ミシイ…」と怪しげな音が聞
こえてきたのです。その音はだんだん小さくなり、一瞬あたりが静まりかえったかと思った瞬間、
おと ちい いっしゅん しず おも しゅんかん



「ドーン！」とおおきな音が鳴り響きました。すると、それはもう大きな化け猫が天井から飛び出してきたではありませんか。村人を襲っていた化け物の正体は、もともとの屋敷に飼われていた猫だったようです。今では、巨大化し、体の模様も不気味な色になっています。

化け猫は、とても大きな目で、キツネの方を見えています。歯はとてもするどく、かみつかれると、ひとたまりもありません。化け猫がキツネに襲いかかろうとしたそのとき、



へや
部屋のふすまが「バン！」と
いきお ひら ごんばち へいたろう
勢いよく開き、権八と平太郎
あらわ ちから つよ ごんばち
が現れました。力の強い権八
ば ねこ はいご と お
は化け猫を背後から取り押さ
へいたろう かたな き
え、すかさず平太郎が刀で切
りつけました。



「ギャオオオー！」化け猫は
おお さけ ごえ あ
大きな叫び声を上げ、その場
たお
で倒れてしまいました。「やっ
ごんばち へいたろう
たー。」と権八、平太郎、キツ
さん さん
ネの3人は喜びました。



よくじつ ぶんばち へいたろう ぶんびと
翌日、権八と平太郎は村人たちに化け猫を退治したことを報告し
ました。村人たちは、「化物を退治してくださって本当にありがとう
ございました。これでやっと皆安心して過ごすことができます。」と
おおよろこ ぶんばち へいたろう ぶんびと
大喜びです。それから、権八と平太郎は村人たちと一緒に化け猫
はお墓をつくってやりました。



また、権八と平太郎は山奥で暮らすキツネのもとを訪ねました。
「せっしやたちに力を貸してくれてありがとう。」2人はキツネに對
するお礼として、おいなりさんをたくさん置いて帰りました。
その後、権八と平太郎は村を後にし、旅を続けましたとき。
布野に伝わる昔話は、これでおしまい。

